「七人の神様」

日見小学校　四年　大木　梨音

「一つぶのお米には、七人の神様がいるんだよ。だから、大切に食べようね。」

私がおさないころ、母はそう言ってご飯をよそっていました。「こんな小さなお米に、神様が七人もいるんだ。この中に、一体何人の神様がいるんだろう。そんなことを考えながら、食べていたのを覚えています。後に、七人の神様には「水・土・風・虫・雲・太陽・作る人」という意味があり、お米が育つには、全ての要そが必要で、どれが欠けてもいけないことを知りました。昔から、お米がどれだけ大切にされていたかがわかります。

今年の夏、日本の各地でお米が消えるじょうきょうが続いています。私が住む地域では買うことができますが、ニュースを見ると、全くお米が売っていないスーパーもあります。昨年、暑すぎて、米の出来が悪かったえいきょうと、南海トラフ地しんの注意報を受け、

非常用の買いだめが追い打ちをかけたのが原因だそうです。お米が主食である私達にとって、これは一大事です。新米が入荷するまで、よりいっそうお米を大切に食べなければいけないと思います。

稲作が日本に伝わったのは、今から約三千年前、縄文時代のころだと言われています。お米は、日本人にとって食べ物というだけではなく、政治やけいざい、文明といった、国をつくる上で最も重要なものだったというからおどろきです。稲作が日本に広まった理由は、気候にありました。日本は雨が多くふり、暖かい国で稲が育ちやすいからたくさんしゅうかくでき、全国に急速に広まっていきました。当初は、お米作りに何度も失敗したことでしょう。苦労して初めてしゅうかくして食べたお米は、とても美味しかったと思います。

さて、そのころ日本にやって来た動物がいます。それは猫です。ペットという存在ではなく、大切なお米をネズミから守るため、人間

と暮らしていました。猫は肉食なのでお米を食べず、逆に猫はネズミにありつけることができ、おたがいに有りがたい存在でした。

お米と猫。この二つの共通点は、同時期に伝来されたことに加え、どちらも私が大好きなものです。猫が日本に入って来なければ、稲作の伝来や発展が、おくれていたかもしれません。猫が、お米の歴史に深く関わっていたことが、本当にうれしいです。そして、私の好物はたきたてのご飯です。おかずは、ご飯のあまさのじゃまをしてしまうため、必要ないくらいです。昔から、日本でお米が主食となり、美味しく食べられてきたことになっとくします。

良しつなお米を作るには、長い年月がかかり、多くの人々が研究を重ねてきたことでしょう。そのおかげで、私達は今、ご飯を美味しくいただくことができます。私は、これからも七人の神様に感謝し、残さずきれいにご飯を食べたいと思います。